

## 人権月間の感想

### <1年生>

#### ① 絵本「わたしのせいじゃない」

- ・ わたしがここにいたら とめてあげて、せんせいに いってから たたかれたこに「あなたはわるくないよ」っていう。
- ・ じぶんのせいじゃないって いっているけど、じぶんのせいだよ。
- ・ ないているのが、かなしそうだよ。人のせいにしたら だめだよ。

#### ② いじめを許さない人権教育教材「こまったな」

- ・ ぞうさんへ。つくられなくて ごめんね。犬さんは 子どものにゆうがくしきなので まにあわないといけなから さきにつくるね。犬さんの ふくをつくるのがおわたたら つくるね。
- ・ 犬さんのようふくを あしたまでに つくります。なぜかという、こどものにゆうがくしきは あさだから さきにつくります。ぞうさんは おひるだから あとでつくります。

#### ③ ともだち1「トイレのこと」

- ・ うんちをするのは あたりまえだし、うしろからみている子も あかん。きめつけたら あかんし、山田くんが うんちくさいのは しかたがないのに それを ばかにしていたら あかん。みんなが よっていったら、どンドン おおさわぎになる。ともだちが わらわれているとき、だれかが とめたりしたら ともだちを だいじにできる。わたしやったら とめます。わらったら だめ。

#### ④ まとめの感想

- ・ ともだちが わるぐちを いわれていたら、だれかが 「そんなこと いったらあかんよ。」と いえば ともだちを たいせつにできるよ。じんけんを たいせつにしよう。人を たいせつにするのは ほんとうに だいじだよ。
- ・ もし ともだちが いじめられていたら わたしはこうします。「やめたったらいいやん。」とか「そんなこと いわんときよ。」といます。ともだちが いじめられているのに みているだけなもの だめ。ともだちを かぞくみたいに たいせつにすることが だいじだと おもいました。

### <2年生>

#### ① 絵本「いじめだよ」

- ・ いじめられた人や どうぶつは みんな くるしくて かなしいと 思いました。
- ・ じぶんも していたら どうしようと 思いました。これからは いじめに 気をつけます。
- ・ わたしは いじめを しているか していないかが よくわからないけど、これからは 人の気持ちを よく 聞いて こうどうするように がんばります。

#### ② いじめを許さない人権教育教材「わたしのことば」

- ・ わたしも ともだちに なにかをおしえていたとき、ぜんぜんつたわらなくて いらいらしてしまって、つよく言ってしまったことがあります。そのあと はんせいして あやまったら 「気にしていないよ。」と言ってくれたので あんしんしました。このおはなしと にているなあと 思いました。
- ・ 「こんなもんだいも 分からないの？」という ことばは ちくちくことばです。でも 「ごめんね。」と ふわふわことばを言うと だれだってうれしくなると 思います。
- ・ かずきさんが にっこりわらって 「いいよ。」って 言ってあげられるところが いいなあと 思いました。わたしも まねしたいです。

#### ③ ともだち2「あだな」

- ・ 花子さんが なきながら 「ハナミズちがうわ。」といったとき、すぐに「ごめんなさい。」と言えぱいいのに と思いました。よびすてや ともだちがいやがる あだなを 言うのではなく、〇〇さんと 言うようにします。
- ・ あだなが そんなに人を きずつけるとは 思っていませんでした。
- ・ もし、自分が言ってしまったら、あいての顔を見て あいての気持ちに 気づくようにして「ごめんね。」と 言って あやまります。

#### ④ まとめの感想

- ・ 人けん学しゅうをして 「人がきずつくことを言ったり、したりしてはいけない」ということが よく分かりました。これから自分が がんばることは、あだなでよばないこと ふわふわことばをつかうこと 友だちをいじめないことです。
- ・ わたしは いじめをしないように 気をつけています。自分がたのしくても 人がいやな気分になることはしないようにしています。ふわふわことばは ともだちをいい気分にさせるので、 わたしは ふわふわことばをたくさんつかおうと 思います。
- ・ これから自分が がんばることは、人やどうぶつに いじめをしないことと いじめを見たら 「やめとき」と言って とめることです。

### <3年生>

#### ① 視聴覚教材「ありったけの勇氣」

- ・ まゆみちゃんの友だちが、みがわりになっていたところが心に強く残りました。自分にはそんな勇氣がないからです。
- ・ いじめは、ことばでは言い表せないほどこわくて、おそろしいものだと思います。

#### ② いじめを許さない人権教育教材「インターネットについて話し合しましょう」

- ・ インターネットに悪口はぜったいに書いてはいけないと思いました。なぜかという、悪口をインターネットに書くと、消すことができなくてエスカレートしていくからです。インターネットでゲームをしすぎて、お金がかかると大変なので、一人ではしてはいけないと思います。
- ・ インターネットは楽しいものだと思っていたけど、こわいことにもなることもあと知りました。でも、先生にこうしたらいいよと教えてもらったので安心しました。
- ・ ぼくの家で1回だけお兄ちゃんがお金のかかるゲームをして、知らない人から「お金をはらってください。」と電話がきました。インターネットはとってもこわいものだと思います。じょうずに使いたいです。

#### ③ ともだち3「わたしの名前」

- ・ ニックネームというのは、よばれる人が「いいよ。」というものでないといけません。人にはちゃんと名前があるし、その名前に意味もあるので、かってにかえてはいけないと思います。これから、ぼくはだれかにへんなあだ名をつけたりしません。
- ・ 自分が言われていやなことは、人にしてはいけないと思います。悪口を友だちに言うと、心に大きなあながあきます。わたしも、へんなあだ名でよばれて、いやな思いをしたことがあります。だから、友だちにいやな思いをさせません。

#### ④ まとめの感想

- ・ わたしはじんけんの学習をして、いじめについてたくさん考えました。わたしも、保育所でいやなことをされたり、言われたりしました。その時は「やめて。」とは言えませんでした。でも、お家の人に相談をすると「こうやったら、やめてくれるかもしれないよ。」と教えてもらいました。その通りにしてみると、やめてくれました。いじめられている友だちがいたら、「やめよ。いじめて何が楽しいの？楽しくないでしょ？」と言いたいです。そして、いじめられている友だちの気持ちを大切にします。いじめは、ぜったいにいけないことが分かりました。
- ・ いじめは、ぜったいになおると思います。わたしは、前に友だちをいじめていました。でも、先生や友だちのお母さんと話し合っ、いじめを止めることができました。今では仲のいい友だちです。だから、いじめは止められると思います。人けんとは、人が楽しく生きるけんりです。とても大切だということがわかりました。

### <4年生>

#### ① 視聴覚教材「いじめと戦おう」

- ・ いじめている子はもちろん悪いけど、見ているだけの子や笑っている子も同じぐらい悪いことがわかった。いじめられている子がいたら、先生に言うか集団を作っていじめをなくしたいです。笑ったり、見たりしているだけには決してならないようにします。
- ・ このクラスでも、いついじめが起きるか分からないので気をつけようと思いました。わたしなら、先生やお家の

人に相談して協力してもらいます。

## ② いじめを許さない人権教育教材「何に気をつければいいのか」

- ・ インターネットは、何でも調べられるけど、誰かのうわさ話や写真などものせられるのでこわいです。いやな気持ち持ちになる人が出ないように正しく使わないといけないとおもいました。
- ・ わたしはインターネットを使うことがよくあります。これから、他人のブログとかを見る機会があるかもしれません。インターネットはだれが書いたか分からないまま広がるので、注意しないといけません。わたしは前からこういうことはダメだと考えていたけど、今日の勉強でもっとダメだと思いました。

## ③ 友だち4「かばんもち」

- ・ はん長とふくはん長はとっても悪いと思います。でも、見ていただけの人も少し悪いと思います。主人公のぼくが学級のみんなに相談したことは、えらいと思います。たぶん「このままではいけない。」と思ったからだと思います。
- ・ はん長は、自分も出来ていないのになんでえらそうにどなるのだらうと思いました。ぼくがしたことは正しいと思います。相談したら、かばんを持たされる子がいなくなると思います。わたしも、この話のぼくと同じように相談していきたいです。
- ・ もしぼくがこんなことをされたら、とってもいやな気持ちになります。だから、ぼくは先生に言います。ぼくには、先生や友だちがいるから安心できます。

## ④ まとめ感想

- ・ 人けん学習をして、いじめにはいろいろな種類があるけど、どれもゆるされないことだと思いました。いじめられている人は、すごく悲しくてつらい思いをしているからやっつけてはいけないことだと思っています。それに、見て見ぬふりをしている人や、周りで笑っているだけの人も同じぐらい悪いと思います。相手が年上でも、相談することは大切だと思いました。
- ・ いじめている子に「悪いことをしたらダメだよ。」と言わずに、見て見ぬふりをしている人はおかしいです。わたしは、そういうことをしたくないです。人けん学習では、インターネットのことも学びました。正しい行動がとれるように気をつけていきたいです。
- ・ 「いじめと戦おう」や「かばん持ち」の学習では、見ているだけではいけないことが分かりました。わたしは、インターネットも同じだと思っています。他人の悪口が書かれているページを見て笑っているのも、同じようにいけないことだと思っています。いつ自分が、いじめる側・いじめられる側・見ているだけの人になるか分かりません。いつも気をつけて過ごそうと思いました。
- ・ いじめられている人を見たら、できることは実行しようと思いました。
- ・ 友だちは大切なものなのに、なぜいじめをするのか分かりません。

## <5年生>

### ① 視聴覚教材「桃香の自由帳」

- ・ 桃香さんは、人の見かけやうわさに関係なく接しているいい子でした。自由帳に会った人の名前と思い出を書いて「悪い人じゃない」と健気にうったえる桃香さんは、無意識のうちに人けんを守ろうとしているのだなと思いました。
- ・ 人を外見で決めつけてはいけないと思いました。桃香のお母さんは、志穂ちゃんや近所のおじいちゃんを外見で決めつけて見ていたから、おかしいと思いました。桃香のように、人の内側まで見ることが大切だと思いました。

### ② いじめを許さない人権教育教材「みんなにできること」

- ・ いじめを止める方法は、人それぞれ止め方があると思いました。自分なりの止め方でいじめに立ち向かうこと

で、いじめをなくすことができると思います。

- ・ いじめは、いじている人だけが悪いのではなく、いじめを見ている人も同じように悪いと思いました。いじめを止めるためにぼくは、先生に言うことをしようと思いました。

### ③ ほほえみ5・6「このままやったら」

- ・ いじめの第三者になってはいけなさと分かりました。自分を変えるには、いつもとはちがう考えをもったり、勇気を出したりするのが大事だと思います。
- ・ 今日の学習で、いじめも悪いけど見ている自分も悪いということが改めて分かりました。ぼくは、自分で変わりたいと思っているのだから、自分の心にしがたがったらいいと思います。

### ④ まとめの感想

- ・ わたしは、人けん学習を通して3つのことを学びました。1つ目は、人を見かけやうわさで判断しないことです。2つ目は、いじめを止める方法は人それぞれちがうけど、自分なりの方法をもつことです。3つ目は、自分を変えるには勇気が必要だということです。いじめを見ているだけの側にならないように、自分にできることを実行していきたいです。
- ・ わたしが一人ぼっちだったころ、友達が助けてくれました。だから、わたしもそんな友達になれるように勇気をもっていきたいです。

## <6年生>

### ① 視聴覚教材「しらんぷり」

- ・ ぼくには、自分よりけんかの強い友達を止める勇気がありません。だから、けんかが終わった後にそっと側にいるぐらいのことしかできません。
- ・ しらんぷりはいけなさとしました。ビデオの中のどんちゃんも、自分なりに一人で戦っていてすごいなと思いました。

### ③ いじめを許さない人権教育教材「心に小さな灯りがともった」

- ・ 話の中の「わたし」は、いじめられていたのに誰にも相談できずにいて、とてもつらかったと思います。なぜいじめが始まったのは、分からないところもつらかったと思います。
- ・ お母さんや先生に相談できないぐらい、つらかったのだなと思いました。ゆり子さんたちは、いじめられるかもしれないのに声をかけていてすごいなと思いました。

### ③ あゆみ3「歯型」

- ・ うそを言い続けた一郎とぼくは、本当にダメだと思いました。本当のことを言わないと、そのとげが永遠に心につきささることがよく分かった。いじめられた子が本当にかわいそうだった。
- ・ 今までに読んだことないいじめの話でした。ぼく、一郎、しげるは最低だと思った。少年は自分なりに戦っていてすごいなと思いました。こんないじめは絶対にいけないと思います。体が不自由な人の足をひっかけてこかすなんて考えられないです。
- ・ この少年は、かむことしかできなかったのだと思います。そこまで少年を追い込んだいじめは、最低だと思った。ぼくの心に歯型が残るもの当然だと思います。

### ④ まとめの感想

- ・ 今まで「いじめ」というものを深く考えたことはありませんでした。自分には関係のない遠いものと思っていました。でも人権学習を通していじめをなくすためにできることを考えました。自分にできることは2つあります。1つ目は「やめようよ」と言うこと、2つ目はいじめを見たら大人に報告することです。こうしていじめをなくしていきたいです。もちろんわたしがいじめる側になってはいけません。また、たとえいじめられる側になっても、いじめには絶対に負けたくありません。
- ・ わたしはいじめに出会ったことがないので、ニュースや新聞で見ても他人事のように感じていました。でも、人権学習でいじめのことを知って、「もしも自分がいじめられていたら…」と考えるとこわくなりました。わたしは、自分の思っていることはしっかりと伝えていきたいです。それで、友達を失うことになっても絶対に分かってくれる人がいるということを信じて、いじめと戦っていきます。